



次世代技術をとり入れたデジタル技工

株式会社アソインターナショナル
小林 隆子

マウスピース型矯正装置は、矯正歯科を行う診療所の半数以上に導入されている。

近年は患者からの要望によりマウスピース型矯正装置での治療を選択する場合も増えており、矯正治療の啓発の一助となっている。

また、需要拡大の背景から、国内技工所にとってマウスピース型矯正装置の商品化は、現在避けては通れない課題となっている。

一方で、「マウスピース型矯正装置では治らない」という印象を与えていることも事実である。

マウスピース型矯正装置での動的治療が失敗する原因として考えられていることは、非適応症例に対する使用、患者が正しく使用していない、技工物の設計・精度が悪いなどが圧倒的多数である。

本講演では、技工物の設計・精度の重要性に焦点を当て、マウスピース型矯正装置製作の要点を紹介していきたい。

より多くの技工所で提供されているマウスピース型矯正装置は、総義歯のような排列が治療のゴールに設定されており、セットアップが非現実的なものになっている事が多く見受けられる。

これでは治療途中でマウスピースが不適合になり、治療途中で歯牙移動が滞ってしまう等の症状がでる可能性がある。

複数枚のマウスピースを段階的に使用して治療を行うこの技工物は、それに特化したセットアップ方法と治療途中の歯牙移動方法の設定が非常に重要になってくる。

また、デジタルソフトを用いてセットアップを行う場合、セットアップだけでなく、その前後作業も精度を高めるために重要になってくる。

データを加工し実体化する手法の場合、使用する機材の特性を理解する必要がある。

口腔内スキャナーやデジタルソフト毎に、生成される歯面の形状が異なり、実際の歯面と差異が生じる可能性があるため修正・調整が必要になる。

この作業が口腔内への適合を高め、動的治療の結果向上の要点と言える。

略歴

2001年 株式会社アソインターナショナル 入社 舌側矯正装置製作部 主任